なつて行かれるであらう駅をた

**獲実の苦戦多さ事態に於ては** もつて超みつつあるかを、 が見受けらってりなく、歌歌し得るようかを

本語の音楽である。 1975年 「一般の音楽の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽できない」 1975年 「中央の音楽をない」 1 適じて、約省の主観によって診が、一合日の最後一般に通有の編の際如 

組織なる ) 機将別の廃止 (現法経済機科 別個に講識を担違する)

件等一部は、既に板揺者において 〇数投資の開放 の教授師の開新 (繊接の目発に中

い情味が、この灰色の社會の中に、かつて組織の急にいさざよく出発した動態氏のあの高らか

それらの最慢はこの歴生たちを休むひまもなく新しい運動に駆り立てた、疲れない若

短頭した吐音、虚説した敷掘

民主大磯のスローガンは、今、日本の大舎な旗印だ、郷面もまた、その大脇の下に再生しな

殿時中、郷生は、あらゆるものを失つた、風間の自由も、いや影問とのものをす

全國的運動に發展せん

応告 副計 国家:編首 暴科 があ

學生運動統

園再

建

大、阪大、陽大、関學、神経大と の確立、数短線の即新に、著々と

全京都學生同盟發足す

とというであた、かくて昨年末よりとというであた。かくて昨年末より

トがない、養物がない、だが、し く考く、そして常生日本を登集ふ つて変報されてインクがない、ペンがない、ノー われわれは、例かしら頼しく領し 満美會

活美會 といふ、戦争によ

合理 れば、自由と称しては放機に、 健から

の個大は支持な受け、毎日 は大器などもの教授での他

速がしつつある致らの影響を救ふって、機能を墜んでの監診官

ぬのた、敗間の国際状態より正にの方を行

かねばなら、此処では

べき力強い双脳なくみとら

・ 直び破ったる一月二十三日、生徒 へけて別和部門と眺ってをついまない。まる一月二十三日、生徒 へけて別和部門と眺ってをついます。

部間に関ってをつたの も、此の生態等の機能が万万味では避かに、 裏絹をか 自み契約の 有機である、此近

に運搬ながら、合日も比較を仰ぎ の無极な大學へ昇格せしめる 盤的 接取明ーそい さへもあつた・それに、紙がない

上に述った、技能の類だした最敬、高塚を「使つつ取り上げ、その内な、既然が経識なく着い様と称体の、われば本述に然で、関西の各大多ない様とがなった。

新設なん が四年度の開催料(昭和二十年)

彼がの得たものは、難かしい「自 ……

のであたがあれて、近れとは、日本とは、日本とは、日本のであたが、日本のであたが、日本のであたが、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のであたが、日本のであたが、日本のでは、

九州際生職職となって発

園は超り上る、自らを火中に投じ

弱べしくも繋ばしきがを出る

生徒日治婚刑成とよる展開の 海側よりの小馬

教授に恵まれぬ嘆き

桂にも自治の靑風

朝にして堅實

工藝大學を夢みつつ

專女立府都京

物友資語ルの活動も活発である。

で生物の自治、自由を釈放し、始散谷氏は、最も良能生涯の資料の

大部分の態度はやはり所頭女性

門は一種大学では歴生でも全種

異び官にかへつた。そして、其処 さて、吸いは状態は略末を告げて 細情は、たら必勝の一線にむかつ されながらる、しかも若含感性の 歌時中、あらゆる面に然で動図

| 4人材を構造するの影響の下に明| 順振されずのとく感染料(図和サーはたいだらうか、……我々の景域のなぜから間外に関新り組を強く 一般将した回塞を対して展示された第一般大生対はがないの深め影響的で

藤等工職場校が、築作工機界にあ

の名便発見としては、野政将たる E 第名は自動であれている。 の名便発見としては、野政将たる E 第名は自動であり、 の名便発見としては、野政将たる E 第名は日本のであれている。 の名便発見としては、野政将たる E 第名は日本のであれている。 の名便発見としては、野政将たる E 第名は「日本のであれている」。

八年四月比較の個注東に即ざ、桂一野であるが、生徒間には

の離縁、極的雰囲気を担らしめ、新時代の

ず、傳統的意識なる機能教授で

田教授が失つた親しさい聞ふべい

て、野につけて戦略を鳴して層しく名和なものでもないらしく、へた無威勢、相気力が完立を続し、恐ら目録ら、外から地へるほど響

つである。氏の無量力が役内

る外接触の機嫌ではるかに強い

一週一時間季鋭の腕磨の

國語科は依然機内動行の

語、物理化製、保藤、養職に分

上 野浦の路、観察音を用・女父、新 の在り方」に徹をなどきる歌次の はすてだつたが)生催性よび意思 こ。数据の肖解性圧動の「自己」 かんしょうなど、新 の在り方」に徹をなどきる歌次の

響が見られるが、全型としては極

いが、各日職級器の制数あると

数据要目に対し協品した希望が

を集つて発足した。昭和 破ジラ女子の場所が同じ、一次所文学は昭和二年四月 一として、府立第一高女

かって、総々しく戦権に参加し、

九年宮立路事の整理地と転換

他上部専門學校と収名、現

を吹騰して、再動への方数と樹々 を吹騰して、再動への方数と樹々

助教授講師助手團

五、一六日)

華生熟談會 (10)

| 数数會を三回にわたつて開催し、 | 1任した経済事態でを三月十九日

出して蘇龍再越を勝田新華商長に数据・助教授・諸田全員帰妻を振 一版以前のまるの数据で行ばれる

件なる機能をはらつたものである 安田、木村 (和) 服田

月八日将一回郷生大舟 部一、同事件に関係を与 れ、同事件に関係を与 れ、同事件に関係を与 れ、同事件に関係を与 が出

全學一致問題解決へ

文教政策の貧困

| 胸体の主催する敵風発表演説者は「党婦的経治、自由党給口襲三、計 心」を打撃せんとして各種意文化

大巫への銀母の道が開かれた日本、別野家浦の海科学は第五年、別野家浦の源科学は第五年、別野家浦の源科学は第五年のプランクを埋めるに無り音味であり、後てクラスは常に順いても変女を関いている。

純良医

となって

党は失頭を招いた、次に京大器

度となり、各立候補 心に増えない問題である▼

し帰國において自由民主的な単元、楊國のイニシアテープを取らんと

第したが、回所上において御田場 ち大家、松岡、郷水、畑江、獲積 配し、問題構造への実施的行動にの部から終いたに触覚を知て計 した。これによって十二般指のう 位にて確認されてみる)に金襴を のやうに述べた、即ち経路暴留の一助教授、講師の全部を留任する 火節を切った。在は悪魔自の極致 地震においては「大量の新化化亚 マでおり、停住の数回な金属は恒 ない 間間を決つの実際的に動と 物を行るつた。突然・二大日の数 これは比較がひにより最かれたデ るる

やまず經濟學部の胎動

六教授の退陣は決つたが

節をは人事の行動りについて次ぎ

搖

する

學

南

る意味を具件す、重調観光者と 「大・臓」登録値が無い数号を が深る場合の行うに関する。 でからこと、新聞力とに関す が深る場合の行うに対して、 を対していました。 でからことに、新聞力とに関す でからことに、新聞のののできたりである。

**學生大會** (廿 目) は次の通り、精場一致で可決した 提案並に破験をなし得る・・・教授會教育影響者に対し破職 教授會、教育協願實公法副時

鎌ばは照かつたが、助数範囲の積 要 子弟 関係を眼前し、肺炎間の

の理論は既る弱体であつた云々

六数機度官といふ一臓の解決は、 「「12 にから、 12 によって、 12 によって、

るべきことを経緯してある

と、毎生の観線は含まで解析生電

四変感で購かれたが、暴邸の前途 静田県昭英を描いて今度の人祭は、而して大學の自治は
原生の自治
た 自無職を間にかずやかせて耐難し、武明者には、大参自治の必然性 を展る場生たちは似にあふれ、各なは、同大僧において発表された 教授總辭職を表明

いてるるにも捕らず、各政党

関語を指すにない、第388名で、単元のが、中の名を第38日記録は は解説報においるのが、単元にもでは問題的は、日次の名所とて、 を表示する。 という語がある。 くいうありたけれてはる を表示する。 という語がある。 この名の の主義なり

いて命るにも押らず、各政党、たかる、身にしるで続ってる。選挙が担づものと書はねばなとら、文淑敬敬に対しては何、3、新しい政治は、次代の中、6品であらう ・文殊政策に如何にさいなまれっとかにすべからざる重要な

具体変に関しては、各党とも総民

版屋

宮澤賢治全集

二百円機 日 士 後 子

決定日本版本サドマン全集「監 正宗敦夫校西鶴全

各所に討議會開健 他の商氏の御脱者を襲行 背景水台美三四、共運党安日總太

が一世をよって多

上甲平谷著 芭蕉 俳 楷 和上甲平谷著 芭蕉 俳 楷 和 齋藤 靜編 雙解英和辭典 中村出版・智器西國立志 學四學考書 罚惠

大八洲出版刊

**夏** 元天皇 吉井 勇 原隨順涉史 存品文章 類職無門の人々 H 短歌歲時 漫 0 筆 記 至古 至古 至古

外地の父兄へ學生の手

(七)食機交易養品の確保

學園雜信

| 西海東空間でいて子鳴りと言う名在 組織が原にと言葉と問題で 成の外、東部軍主副司組合と「大震を開たいて子鳴りと言とる」 運会が終ったうち勝く たの新知 自発的に複雑が比較された 京都在外父兄救出學生同盟 取翻空生への影賞質の

[立節順大曲] 法文称與(數開部)

怒濤會誕生 黎明、自治

選してみる、三方十六日同島黎所「引上上陸 骨離師(六)郷の 殿體 一同単日郎の動きは和特される一般が《知賞、同郎自は六五一名に「吟歌(四)外地の伽藍集戦(六) に単生の動きに加持される は、京都府省局を販酬をしめて、 政治的になりやすい運動を、総督の六郎を置き帰國の自治組立形を持用原理を対象を、総督の六郎を置き帰國の自治組立形を持用原理を対象を表現している。

職教権に委立て現職教授は一切関
医学は物系令方面の注目の
の後緒を持ら、すべてはこれ等の
「東大」法殊密、経済別 のために紹見の一致を見ず、単生一向は興味を以つてみられてある。 いあつたが、個内収応は追及収益

歌を認めたらしむべきである」と
代表するものとして文将を受け
歌雅は歌を映び決けしいで暴内政
新任献生養員は、歴史の機能を に駆時中における實任問題のため一瞬が長田身が言明してゐる 国
文書部に放ては髪帯の性質上法・
・
・
し差し替つて問題になることも
「何様
ないだらう

典學:小松鄉一郎町氏社會学 何等の意見がなく、既生を失動さ物権法概説 せてゐる、際に京大政治研究質が

權田保之助著 戒能 通季著 新图月上旬 上卷

沖中 インフレーション 恒 幸著「新規則

米國の政治と經濟政策
第171年機能領土人権 斐 有是學問的發展

原生和互の観覧を計る、な技術科

大阪高醫同盟休校 し、著々として影響民主化な契

州生、敷藤崎一致してス

憲法の由來及特質 政治史序說

97

熊吉

## 制開 に戦争中着い人道が観測を持つ

短期一部(十個) 贈料

社閩新學大都穿

說

うな方向へ、どのやうな地震を な自らの観響を自らの責任に於 が自らの観響を自らの責任に於

**東大(文)教養高坂正顯** さく吸く発足するであらう事を

常に淋しいと思つてゐた処、此 同志紅女真校長片相古 從來関門に関西独自の特色を

企圖して京大阪院衛師の全教権 助数据の綴辞職が発表され、

調する 日本の戦争の上に大きな波波を描 本数學の胎動のであった。 これはまた過去の腕れる

て、この医療な問題の解決に努力 金数拠、卒業生、悪生一体となつ 職、河田間四西博士への回和 

卒業生大會 (九日)

かくて、十八日碳酸は開棚され、

期害を設明したが、再開の開発は

大商阪大

は我々の手で、明朝なそして歌家と「壁像の歌画」・が生れた。「てた、東下頭を封めされた日本の」 生徒観としては無視的影響とし

住だ、工事生は、大無別格への際 概でなければならない、その日本 な数ふらのとしての手腕的で開い 一般を救ふるのは、日本の整備で さいケループの管成能が充実な、第へとしての知識との切象により概念

次版を出現さば、各自の自己 なは ではいなが、世間は上記は語S版 しかしながら『動意時代』の分散 パープに分離さしめ「軽線関係」 り機構的白製は御らいだ

ず、女教授の職員的婦外と発形し 科化学被量に希謝して容れられ

金楼中最も暇かで既然であり り一層植植的活動であるが、平

窓の日後ら、外から着へるほど解 更に、土八日には教育自治路院主

れでは原枝でこれに代るべきもの

の旅である、その舞びの歌 口からて休眠の歌響である

物果學·李

· 罗· 李

新願良三編シラー選集の職業為八円田北學編編年大友史料二四等日

村上專辦著禪宗史網 11年8日 大幸勇吉著物理化學原理 图型 東京神田 富 Ш 高品品

西部田二ノ四 日 本讀書組合

佛一回頒布五千船限足 

版社 ジイト全集

夜隨筆體

Z 福

日本紋章史話 紙 三二 四

山科に住みて年經る友を見て老の清さに 山科の朝の雀よ聖さび老いづく友の眠り 思ひ出づわれのわび居を憐みて友の臭れ ゆくりなく京にて會ひし機能をば言には

製物機の映画を作成したが

のでいから

山科の竹の林に老いづきて友の心もしづ

學

の軍輌主義を建設してお

日吾のわかき日

東京の空に旅雕の飛ぶも見き友のわかき 本郷へ寂しく歩むわかき日の友をおもっ わかき日の友のおもかげおぼろげに浮び

ものは、其の影響に於てこれを良然るに、國家の支配回覧服力なる

では、 ・ 大きの地では、 ・ 大きのは、 ・ 大きのは、

思想は一般吐管に宝で及ばなか

"東日。紙上に運搬

南消

息

しく、美しい物機であることが含ぎらからである

池

聚(水) 鈴木助次郎 寬小論 學生奇稿

れた。即ち統治とは「國民を提問権」という。

然し、日本図の統治機は、統治

落合太郎君へー

吉井

勇

的政体であつてはならないといふ

しめたのである。 以家氏は近しのためである。

浪漫性の克服 人間性を確立せよ 東大島院(後) 角 山

て現会っと思っ。 ・ 期間和行状師 にようて友優 にデクユーする即居氏は、5条 に異はれた氏の風歌は、 み。に異はれた氏の風歌は、

は、この際世別規格は彼らの対このやうに後途的機嫌によつ

20 リスが未来より経門などのはない。中間の の変力へ可から同時に、ノヴケー

では う河町で木米の理様である点への ものの洗着へ、乗びは過去の

的に強く確つたものへ回けられ

究研令法理管本 B

郷の夢である

は勿職公納研究者に取つてら必 飾ず本典唯一の飲である。機能 基本問題、関内新旧階を今の改 際との連門に釣も理論的究明を 月面(1日・1五日) NON-UNAME 堂

·前第一号門・曜一元・〇〇

大

て氏は不一兎し円無時の着い人々の無得を、裏門な人間は水器門なもの、間

即の動資は古典的樹種と呼ばれ、 · 是等は、人間文化S無経基本概

に寄た。即ち彼らの観覧は何ら質繁に

後、出版的であるからである。ウォル 教養、精神の自由、人間の教験 一、本法の関係機器受付します、一部三十島、1998年日 ・ 本法の関係機器受付しま 社告

て何と襲ましき限りではないか。 鈴木大拙 柳安國語を讀みて 担大

本の管理に関する階法令を改文 カイロ宣传より最近に割る公日 と対局し、無切な解脱と管理の

湯川秀樹物質世界の客観性に就て高山岩男所の倫理 - IIII

黒田正利著サイコの新科學 Actilists 高安國也著新されての新科學 Actilists

哲學季刊第二號鄉院

秋田屋 近刊 体 於照得學院 吉川幸文郎書支那について Mastracc

でもれば食等の やって自分は影合して止まないのこの無害に質 併してれらの連続を生む

治の兄弟。むとなど発表してある

知識 京都印書館

芭蕉庵桃青傳 內田科雕著 DEVEND 大 寺

何でからつ。原西主義を発展

東大寺綱『近小新版 記 1.00 1.11 0.11 1.00

**資**福寺本 古 山田季雄監修並解說 [発量]

野館 展览京都: 元六二番 世界文學京都寺前通常首綱之中 世界文學

労団以一の海外交易線合難難 界文 文學類類

アメリカとは何ぞや 

▼田田 松一町市山大阪教授

最の世紀には八個の時代の中の後

タ時か修練にその職選を振ぶであ 自由三難の時代となつた。 費力は 製造が出よ「野野は移り」な世に 今の我沿田の職様に倫理と続っ

らい。原以"形板の衝突間

戦争抛棄に關する規定

主権と憲法改正草案

では日は一歩をするめて行

で含るものと彼らは弱へる。
必然的に健康な言葉が社會が公園

現実が政命されるべく存在する

神経の野づら 大和古寺風物誌 笑の本題 死

刊料川端茅舍句集 東亞の古代文化 **地**原 未给 THE STREET 明本 要 自

解剖刀を執りて素ない

98